

安全・健康に妥協なし 奈良県トラック協会SASの 取り組み

◎ 第5章 現場レポート

公益社団法人奈良県トラック協会は、同県大和郡山市に拠点を構え、二〇二三年八月現在、県下の四七二事業者が加盟している。早くからSASの危険性の周知やスクリーニング検査の助成制度に力を入れてきた同協会と、二〇二二年に助成制度を利用して検査を受けた事業者やドライバーに、その現状や、見えてきた課題について語っていただいた。

セミナーを開催しSASの周知を図る

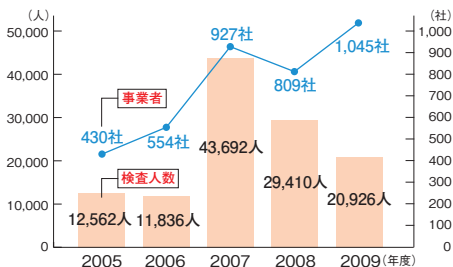
奈良県トラック協会では、安全・事故防止対策に積極的に取り組んでおり、安全講習会やセミナーなどを頻繁に開催するとともに、警察、国土交通省、労働局などの協力も得て、会員への啓発活動を行い、安全運転に関する情報の周知を図っている。これらの活動が行われるようになった背景には、安全に関する社会の意識が変化したことが大きい。二〇〇〇年前後にトラックドライバーによる飲酒運転や居眠り運転による悲惨な死亡事故が多発し、社会的にその責任が大きく追及されるようになったことも一因だ。

SAS（睡眠時無呼吸症候群）についても、同協会は問題の重要性を



公益社団法人奈良県トラック協会
会長 藤岡修三さん

全日本トラック協会SASスクリーニング検査 助成の実績



社団法人全日本トラック協会「トラックドライバーのためのSAS対策検討会 報告書」より
※2005年度は2005年7月1日～、2009年度は2009年12月末現在のデータ

認識し、就任四期目の藤岡修三会長のもと、早期に取り組みをはじめた。二〇〇五年から、「SASスクリーニング検査」を受けるドライバーに対して、全日本トラック協会と共同で一部助成金を負担。また二〇一〇年には、同協会の会館において、SASをテーマとしたセミナーを開催した。さらに二〇一二年には、トラック協会が「SASスクリーニング検査」の費用を全額負担する制度を実施。二〇〇〇名限定で募集を行ったところ、翌日には定員に達したという。

しかし、自ら進んで検査を受けるドライバーはまだ少ない。藤岡会長は、ドライバーがこの検査に消極的な理由を三つ挙げた。「コスト」「時間」「解雇の不安」である。しかし、これらには誤解が多く含まれており、躊躇する必要はないと断言する。

まず「コスト」について。SASスクリーニング検査の費用は五千円だが、各都道府県のトラック協会の助成制度などを利用すれば、その費用を抑えることができる。さらに「時間」については、最近では週休二日制も定着しつつあるし、また、スクリーニング検査は送られてくる検査キットを装着して自宅で睡眠中に行うだけなので、さほど大きなハードルではないはずだ。三つめの「解雇の不安」については、「早期発見して適切な治療をすれば



西濃運輸株式会社 奈良支店
支店長 甲斐義昭さん



公益社団法人 奈良県トラック協会

治る病気」なので、事業者もドライバーも本当は恐れる必要はないという。「健康診断が義務付けられているのだから、その検査項目にSASが入れば、それがいちばん理想的です。SASが引き起こす事故の重大さを考えれば、それだけの必要性はあると思います」と藤岡会長。

奈良県トラック協会は、SASについてすでに二回のセミナーを開催したが、今後もこのような周知を続け、SASの早期発見に取り組んでいくそう。

早期発見によって確保される安全

ではここで、前述の助成制度を利用した事業者や、実際に検査を受けたドライバーに、実態や感想などを聞いてみよう。

まず、二〇名のドライバーがSASスクリーニング検査を受けた西濃運輸株式会社・奈良支店の甲斐義昭支店長に、導入のきっかけについて尋ねてみた。

「奈良県トラック協会の助成制度があったことが大きいですね。本社からも、そういう検査があれば積極的に参加するようという通達がありま



西濃運輸株式会社
奈良支店内には、連
続無事故日数が掲
示されており、ドライ
バーの意識を引き締
めている



西濃運輸株式会社 奈良支店
ドライバー 芝口正樹さん

した。SASについてはもちろん知っていました。弊社でも以前に全社的な検査を実施したのですが、それから一〇年近くが過ぎていい機会だと思えました。うちはドライバーが四六名いるのですが、今回は『一社当たり二〇名まで』という制限があったので、夜間運行の者と、昼間の集配でも大型免許を持っている者に限定しました」。

甲斐支店長は、検査前に不安に感じているドライバーに対して、「たとえ病気だと診断されても、治療すれば治る。それで免許を取り上げたり、職種を強制的に替えたりはしない」と事前に話をして約束をしたという。「最初に不安を払拭しておかないと、悪い結果が出るのを恐れて、奥さんに検査キットを付けさせる人が出かねませんからね」。

SASスクリーニング検査では、症状の重さに応じて「A」から「E」の五段階の判定が下される（判定不能の場合はF）。DかFの判定が出たら、病院に一泊して行う精密検査（PSG検査）に進むことになる。

検査結果は事業者と本人とに通知され、奈良支店では、大半がBかC判定の中、二名ほどD判定が出た。二名はすぐにPSG検査を受け、一名は問題なく、もう一名は要治療と診断されて現在は通院中だ。

「最初は検査結果は公表しない、ということにしていたのですが、スク



西濃運輸株式会社 奈良支店
ドライバー チームリーダー
阿南敏久さん

「検査結果はC判定で二次検査にはなりませんでしたが、いびきは以前から妻に指摘されているので、質のよい眠りと心地よい目覚めのために、睡眠のリズムを記録するスマートフォンアプリを利用しています」

リーニング検査の結果が届いた時点で、ドライバー同士が『どうだった？』などと言いついて、各自の判定結果はみんなが知るところとなっていました」と甲斐支店長。

「でも、それが結果的によかったようです。ドライバー仲間から、『治療中の彼は、夜間の運行はやめて、近場を走らせたほうがいい』という声が自然に挙がりました。そこで、チームリーダーとも相談して、シフトを替えて、無理のない走行コースを設定してもらいました。みんな『大丈夫か？』と声を掛け合うようになりましたし、オープンにすることで周囲の理解も得られました」。

治療しながらドライバーとして仕事ができる、という前例ができたことで、次回からの検査は、より抵抗なく受け入れられることだろう。ちなみに、D判定が出たもう一名は、同社で夜間運行を担当する芝口正樹さんだ。事前に「解雇はしない」と言われていたが、それでも大きな不安を抱えたままPSG検査を受けたという。結果は、意外にも「異常なし」だった。今度はそれが解せず、医師に理由を尋ねたところ、自宅での飲酒量が多いのがD判定の原因だろう、と指摘されたという。

「お酒を飲んだほうがぐっすり眠れると思って、普段は寝る前に瓶ビー

西濃運輸株式会社
奈良支店 ドライバー
長谷川耕平さん

「検査をきっかけに、どうすれば質のよい睡眠がとれるのかを意識するようになりました。自分の健康状態を知り、生活改善をするよい機会だと思います」



ルを三〜四本くらいは飲んでいました。自宅でのスクリーニング検査のときもそうでした。飲酒によって喉の緊張が緩み、気道の肉が下がるため、睡眠の質も下がり、検査結果にも影響するんだそうです」と話す芝口さんは、その後、晩酌の量を減らすことで、運転中の眠気も軽減されたそうだ。

検査・治療を積極的に推進

トラック業界は大半が小規模事業者で構成されているが、そうした会社のひとつである川端運輸株式会社も、二〇一二年の奈良県トラック協会の助成制度を利用してSASの検査を受けた。同社は一九六四年に創業し、現在は二一名のドライバーを抱える。父親が興した会社を継いだという川端章代社長に、同社の安全対策やSAS検査についてお話をうかがった。

「SASについてはトラック協会からのお知らせや冊子などを通して数年前から知っていました。会社で率先してドライバーに検査を受けさせる、というところまではなかなか至りませんでした」。

川端運輸株式会社
管理課長 川端真也さん
「検査には抵抗がなかったのですが、検査キットを装着するとテープで引っ張られる感じで、睡眠中に無意識に外してしまいうそになりました。もう少し検査機器の改良が進むといいですね」



川端運輸株式会社
代表取締役社長 川端章代さん

ところが二〇一二年、SAS検査費全額助成制度が発表されたため、この機会を逃してはいけないと思い、すぐに手を挙げたという。

二〇名のドライバーが検査を受け、その結果、D判定が一人出た。PSG検査を受けるように勧めているが、本人は「心当たりがない」「行く時間もない」と言い、まだ検査を渋っているという。

「病院に一日しなければならぬのと、二万円以上かかる検査費がネットのようです。出勤扱いにして日当は出すし、検査費の半額は会社から出すという条件を出して説得中です」とのこと。

「心の健康と体の健康がなければ、こんなに厳しい仕事はできないし、健康が損なわれたらすぐに事故に直結する。ドライバーの安全を守り、社会に貢献できる人材を育てることも経営者の役目と考えています」と語る川端社長は、安全や健康に関するセミナーには進んで参加し、そこで受け取ったポスターやチラシを社内に掲示し、さらに社内勉強会を年に三回は実施。社外の安全運転研修にもドライバーを積極的に参加させている。「うちのような中小企業は、ドライバーが検査や研修で仕事を抜ければ、そのぶん目先の売上げは減るので厳しいのですが、安全や健康のことは妥協しないつもりです。事故を起こして失った信頼は、取り戻せませんから」。



プロとして健康管理にも万全を期して運転に臨む



川端運輸は物流が社会の豊かさやライフラインを支えていることに誇りを持つ企業を目指している

健康診断にSASの項目が加われば

SASスクリーニング検査率の向上にもっとも確実なのは、職業ドライバーの健康診断の検査項目に、SASが追加されることである。

それが実現されるまでは、奈良県トラック協会としては、SAS検査助成制度の継続、セミナー等による周知活動などに尽力していくという。「私たちの協会を通じて検査を受けたトラックドライバーの割合は、多く見積もっても全体の数パーセントというのが実状です。一足飛びに効果が出るものでもありませんが、SASの危険性をしっかり周知していくことで、検査を受けるドライバーを増やすことはできると考えています」（藤岡会長）。

このような活動を地道に続けたからこそ、今回取材させていただいた二社のように、潜在的なSAS罹患者を早期発見することができたことは事実であり、その意義は大きい。

「SASは重大事故に直結する、本当に怖い病気です。その恐ろしさと、治る病気だということを皆さんに知ってもらい、積極的に検査を受けて欲しいです」と語る藤岡会長の言葉には、熱い思いが込められていた。